

◎今週の御言葉 「互いに愛し合いなさい」（レビ記19章9～18節、ヨハネの福音書13章31～35節）

「あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは主である。」（18）

「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」（34）

◎私たち一人ひとり、他の人との人間関係において一番大切な要素は「愛」であることを覚えます。その源は？

◎レビ記には、イスラエルの民が守るべきいけにえの制度、様々の律法、宗教的な祭り等について記されている。本書は、旧約の他の書を十分理解するためにも、またキリストの贖いの意味を理解するためにも、重要な書です。19章は「十戒を具体的に示した箇所」で「神と人への行為全般」について要約している。特に18節は律法の要約であるのです。

◎ヨハネの福音書13章以下は、主イエスが最後の晩餐の席上で行い、また語られたこと等の記事です。「さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された」（1）。主イエスのご自分の時（栄光を受ける時＝十字架と復活）が来たことを知って行動された。しかし『世にいる』者、『ご自分の者』（弟子たちを含めてすべての人）には理解出来なかった。その弟子たちの姿は私たちの現実です。その一人ひとりを主イエスは「最後まで」、「この上なく愛し抜かれた」。①その姿の表れが洗足の出来事です。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります」（7）。私たちの罪と汚れをご自分の身に負われ、十字架に架かって死んで下さる秘儀です。そして私たちにも「しもべ」となって「互いに足を洗い合うべきです」（14）との勧めです。

②イスカリオテのユダが「出て行った時」主イエスはその時が迫ったことを実感された。主イエスの十字架がなければ復活の出来事は起こらなかつた。父なる神と子なる主イエスは一体であられ、十字架を通して神の御心が行われ、復活をよって栄光が顕わされた。③「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい」。主イエスは心から弟子たちを愛されたように、私たち一人ひとりを愛して下さる。神様は「限りなき愛」によって愛して下さる。愛されている事実をしっかりと受けとめ、私たちも「互いに愛し合う」存在として「弟子であること」が認められたい。